

- 1 特集・奥能登食彩紀行『能登井』** 2  
『能登井』～井の中に能登がある～
- 2 いしかわ地域づくり塾の報告** 4  
事例研究編
- 3 大学と地域が連携する地域づくり** 5  
被災者の健康づくりをテーマとした特別公開講座開催
- 4 石川地域づくり表彰** 6  
「石川地域づくり大賞」受賞団体の取り組み 6  
「石川地域づくり優秀賞」受賞団体の取り組み 7
- 5 NEWS & INFORMATION** 8  
講座／報告会／イベント／研修会

# いしかわ地域づくり 往来

[www.pref.ishikawa.jp/shinkou/juku/](http://www.pref.ishikawa.jp/shinkou/juku/)

発行日／平成 19 年 12 月 28 日

発行／いしかわ地域振興推進協議会

発行者／いしかわ地域振興推進協議会事務局 事務局長 森田 美恵子

〒920-8580 石川県金沢市鞍月1丁目1番地

石川県企画振興部地域振興課内

TEL.076-225-1312 FAX.076-225-1328

E-mail [chiiki2@pref.ishikawa.lg.jp](mailto:chiiki2@pref.ishikawa.lg.jp)

# vol.2

I s h i k a w a L o c a l R e v i t a l i z a t i o n A l l R i g h t



雪だるままつり（白山市）

\*記事及び写真の無断転載はお断りします。

# 1-a 特集・奥能登食彩紀行『能登丼』

県・奥能登2市2町・民間事業者及び地域づくり団体等からなる

「奥能登ウェルカムプロジェクト推進協議会」では、奥能登の多彩な食や食文化の魅力を全国発信するため、12月1日から奥能登食彩紀行『能登丼』（通称『のとどん』）のキャンペーンを実施しています。今回は、その取り組みについて特集します。

## 『能登丼』～丼の中に能登がある～

プロジェクトチーム リーダー 金七聖子（松波酒造若女将）

奥能登ウェルカムプロジェクトに参加したのは、能登町役場の担当者より「奥能登2市2町の民間事業者やNPOからメンバーを募って、県外からのお客様を増やす取り組みをしたい」というお話をいただいたのがきっかけでした。今年3月に起きた能登半島地震もあり、「少しでも能登全体が明るくなり、観光のお客様に戻ってきていただける、そんな案が生まれる」とシンプルにそう思いました。



金七聖子さん

プロジェクトチーム（PT）のメンバーは、民間事業者・行政・商工会・NPOと異業種ばかりで、商売や観光に対する視点が様々であり、それぞれの立場から「奥能登」に対する熱い想いが語られました。率直な意見を集める為にブレインストーミングを行うと、「食、祭、伝統、文化、旬、器、人」に話題が集中し、商品開発のみならず、情報の発信方法や集客イ

ベントなどの提案もありました。

この時に気付いたのは、自分が住む町から少し離れた地域には、地元でも知らない「奥能登」があるということでした。そして「奥能登の魅力的な“食”は外せない。地域間で協力し合い、“食”をもっと掘り下げる事で「奥能登」を発信できるのではないかと。伝えたい事がありすぎてまとめきれないという贅沢な悩みがありました。

いろいろと議論を重ねた中で、「何か“食”で1品作ってみよう。」そんな声が上がリ、今までおぼろげだったプロジェクトのコンセプトが見え始めました。PTの会議だけでは机上の空論になってしまう事もあり、県や奥能登市町の行政が架け橋となって、各市町の旅館・飲食店の代表者と話し合いを重ねました。議論の結果、「奥能登の美味しい米を使って、旬の食材をのせた『能登丼』なら、食や食文化の異なる2市2町の飲食店等でも共通の一品として出せるのでは」と。大きな前進であり、飲食店等に賛同していただいた事に気持ちが踊りました。

プロジェクトチームでは、月1回以上集まり話し合いを重ねてきた。

アドバイザー道場六三郎氏との意見交換会での記念撮影。



## 『能登丼』～丼の中に能登がある～

プロジェクトチーム リーダー 金七聖子（松波酒造若女将）

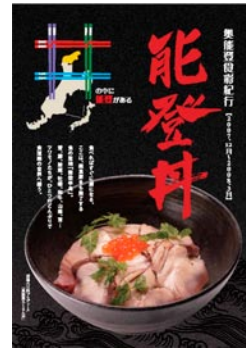
それからは『能登丼』の定義作りに入り、「こだわりの地元の器を生かしたい」「環境問題に配慮したマイ箸の活用法」「風土を生かし、健康的で、旬の食材を使用」等々、お客様の目線で喜んでいただける地域ブランドにしていこうという気運になりました。その後のパンフレットの製作やPRイベントの企画についても、民間と行政が協力し合いながら、2市2町の行政の枠を越えて進めていきました。

私がこのプロジェクトに参加して感じたことは、行政は情報量が多く、関係者へ迅速で密な連絡調整をとる力があり、民間は商いの経験で培われた企画力と行動力、そして人脈を大切に活かそうとする気持ちがあるということです。両方が協力し合って実行すれば、能登の魅力をもっと発信できると感じました。

『能登丼』をきっかけに訪れてくれた観光のお客様には、旬の新鮮な山海の幸、醸しの文化、日本の原風景、伝統工芸、そして携わる能登人の魅力を発見していただきたいと思います。そして地元にも、『能登丼』に関わる事で、今まで気付かなかった魅力を

再発見してほしいです。ここをスタートにして、能登のファンが更に増えていくことを願います。

### 『能登丼』の定義



#### 食材

- 奥能登産のコシヒカリ、水を使用
- 地場でとれた旬の食材または地産の伝統保存食を使用

#### 食器

- 能登産の器、箸を使用
- 使った箸はお客様にプレゼント

#### 調理

- ヘルシーにこだわり、オリジナリティを大切にする
- 奥能登地域内で調理し、提供する

奥能登ウェルカムプロジェクト（能登丼パンフレットの閲覧可能）

<http://www.notohantou.net/okunotowp/>

### 奥能登ウェルカムプロジェクトとは？

県、奥能登2市2町、民間事業者、地域づくり団体等が本年5月に協議会を設立し、モデル事業等の実施を通して、継続的な誘客のシステムづくりや民間主導の運営体制の移行準備を進めている。

### 奥能登食彩紀行PRイベント

## “まいもんまるかじり王国” BRAND NEW『能登丼』がやってくる!

食材から食器までとことん地元産にこだわった『能登丼』は、奥能登の新たな地域ブランドとして、去る12月1日から奥能登2市2町の54店舗で提供されています。

12月8・9日には、「まいもんまるかじり王国” BRAND NEW『能登丼』がやってくる!」と題して、金沢市香林坊にてPRイベントを行いました。同イベントでは、各日4店舗による『能登丼』の販売や、ふるまい鍋、2市2町の食祭キャンペーン、郷土芸能の披露が行われ、大勢の人出で賑わいました。1月には、道の駅輪島「ふらっと訪夢」にて同様のイベントを開催し、『能登丼』のさらなるPRを図っていきます。(イベント情報はP.8)



12月8・9日に金沢で開催されたイベント。

「参加協働型社会を拓く～コミュニティビジネスの実例から学ぶ～」と題して、いしかわ地域づくり塾（事例研究編）が開講しました。金沢大学大学院人間社会環境研究科の世古一穂教授をコーディネーターに、毎回、全国各地で地域づくりに取り組む方を講師にお迎えし、ワークショップを交えながら協働によるまちづくりについて学んでいきます。（平成20年1月12日まで）

## 事例研究編 (H19.11～)

### コミュニティビジネスとは

最近、コミュニティビジネスを「ビジネス」に軸足を置いて考える傾向がありますが、本来は「コミュニティづくり」に軸足を置いて構想・実践すべきものなのです、とコーディネーターの世古先生は述べられています。「ビジネス」は効率や利益を求めるものですが、「コミュニティビジネス」は「共感」を広げ、多様な主体の協働によって地域の課題を解決するための取り組みであり、市民社会を拓く仕事とも言えます。

今講座では、コミュニティビジネスを通じて、参加協働型まちづくりを発展させることをねらいに、世古一穂編著『協働コーディネーター』（ぎょうせい 2007）で取り上げた全国の取り組み事例を紹介、研究する中から、コミュニティビジネスへの理解を深めていきます。



金沢大学大学院人間社会環境研究科の世古一穂教授。

### 第1講

#### 食を核としたまちづくり

～参加協働型のまちづくりの実践～

NPO 法人気仙沼まちづくりセンター常務理事の菅原昭彦氏を講師に、「食」をテーマにした取り組みをご紹介いただきました。食イベントは、市民が参加しやすく、多様な展開が可能であるため、市民の参加意識を形にする環境を作り出すことが必要であるとお話をいただきました。

### 協働の原則（気仙沼市の基本姿勢）

- 1 自主性、独立性、創造性の理解と尊重
- 2 パートナーとしての対等性の確保
- 3 自立性を尊重した支援活動促進
- 4 客観性、透明性の確保
- 5 事務事業の見直しと目的の共有化



第1講の講師を務めたNPO 法人気仙沼まちづくりセンター常務理事の菅原昭彦氏。

### 第2講

#### コミュニティ・レストランを通じた地域づくり

北海道コミュニティ・レストラン研究会代表の伊藤規久子氏を講師に、自らが運営するコミュニティ・レストラン「野の花」を中心とした取り組みをご紹介いただきました。コミュニティ・レストランは、地域のお茶の間として機能しており、高齢者の生活支援の場、情報交換の場にもなっています。また、地域の人材をうまく見つけ出し、コーディネートすることで、地域の技術・知恵を活かす場にもなるのお話をいただきました。



第2講の講師を務めた北海道コミュニティ・レストラン研究会代表の伊藤規久子氏。

# 3

## 大学と地域が連携する地域づくり

県と大学コンソーシアム石川は、大学と地域が連携する地域づくりを推進するための様々な事業を実施しています。そのなかのひとつとして、一般県民の皆様を対象に公開講座「いしかわ学」を開催しています。通常はいしかわシティカレッジ（金沢市・県広坂庁舎）で開催している公開講座ですが、今回は、金沢をとびだして、能登で初めて能登半島地震の被災者を対象とした特別の公開講座を開催しています。（平成20年2月28日まで）

## 被災者の健康づくりをテーマとした特別公開講座開催

大学コンソーシアム石川は、県内の高等教育機関と地域社会の連携を進める活動をしています。今号では、県からの委託により実施している特別公開講座の開催について紹介します。

今回の特別公開講座は、高等教育機関の提供できるテーマと地域の開催してほしいニーズをマッチングさせた講座で、能登半島地震の被災者、高齢者を対象として「健康づくり」をテーマに12月1日から2月28日にわたって6回開催していきます。

初回の12月1日は、穴水町大町の心のケアハウスにおいて、金沢医科大学田村暢熙教授の「起きて半畳、寝て一畳のスペースで行う健康づくり」講座が開催されました。

参加者は、穴水町の仮設住宅にお住まいの50歳代後半から90歳代の女性で、田村教授からタイトルどおり、畳半畳から一畳でもできる健康づくりのための講義を受けました。

具体的には、ころばないための歩き方や、ぎっくり腰にならない腰の運動、寝たきりを防止する運動など高齢者でも手軽にできる体操が講義され、座学

のみでなく実際に体を動かし、参加者の笑顔もこぼれるなか終始和やかな雰囲気で開催されました。参加者からは、「狭い場所でもできる体操なのでとても役にたった」「とても面白かった」「また開催してほしい」などの感想がきかれました。

この穴水町の講座を皮切りに、12月5日には輪島市の館仮設集合所、12月11日には道下仮設住宅敷地内で同講座が開催されています。



田村教授から足を健康に保つ講義を受ける参加者。

### 1月以降の予定

受講料無料、お申し込みは不要です。当日会場にお越し下さい。

#### 第1講

「転倒しない健康な体作り」

- 講師 金城大学 山本 拓哉助手
- 講演日 平成20年1月21日(月) 10:30～11:30
- 講演場所 輪島市ふれあい健康センター  
(輪島市河井町2部287番地1)

#### 第2講

「起きて半畳、寝て一畳のスペースで行う健康づくり」

- 講師 金沢医科大学 田村 暢熙教授
- 講演日 平成20年2月28日(木) 10:00～11:00
- 講演場所 輪島市立諸岡公民館  
(輪島市門前町道下7の175番地)

## 4-a 石川地域づくり表彰

県内で先進的な地域づくりに取り組む団体等に贈られる「石川地域づくり表彰」。  
応募があった22団体、2個人の中から、  
「大賞」「優秀賞」を受賞した各1団体について、その取り組みをご紹介します。

### 「石川地域づくり大賞」受賞団体の取り組み

雪だるま倶楽部(白山市) お問い合わせ 0761-98-2071

NPO 法人 i-ねっと取材チーム

手取川ダムから幾つものトンネルを抜けると、細い坂道の路地沿いに、小さな集落の家並みが肩を寄せ合ってたたずんでいる。冬になるとすっぽりと雪に覆われる、日本有数の豪雪地帯として有名な白山市の旧白峰村である。

「このやっかいな雪を逆手にとって、若者有志が中心となって毎年2月に雪だるまを作る、村おこしにと始めた『雪だるま祭り』も早や18年。楽しみながら住民が地域づくりを始め、結果として観光客が来ればというねらいが見事に的中。全国的にもすっかり有名になったが、当初の地域の祭りという雰囲気、今は観光客のためのイベントになってしまった」と語る山下浩雅さん。そこで村おこしの第2作戦として、今年から新たに始めたのが「雪だるまカフェ」という事業だ。

生まれ育った白峰が大好きという村仲間の絆で結ばれた仲間の一人がオーナーになって、古民家を購入。山下さんはマネージャー役。「ここを拠点に、近所のおばちゃん達がわいわい集まって、今は喫茶だけだが、白峰の生活食文化を発信するのが夢」と言う。

郵便局の斜め向かいの古民家は、真新しい看板が目目を引く。おみやげ屋風の一角の奥は和室が広がり、お宅にお邪魔する感覚だ。車座になって夜遅くまで酒を飲み交わしたくなる雰囲気のあるつくりで、伝統的建造物群調査が始まった白峰地域の、代表的民家と言える。

山下さんは白山市役所の職員でもある。「白山市の地域振興は、金は出せないが人は出せる」このスタイルは、行政の出来ること、地域の出来ることを持ち寄る協働の地域づくりだ。それだけに「いろいろとやりたいことはあるけど、白峰の人は恥ずかしがりやで、お世話が苦手なんです。少しずつ変わってきてはいるけれど、私が動かなくても自分達で組織の運営を時代を見据えながらやっていけたら。それが一番の課題ですね。」と、本音が出る。

晴れの受賞式の日「ありがたいことですが、まあ、ぼちぼちこれからですね」と山下さんに気負いはない。授賞式プレゼンの「頑張っていると、ラッキーがついてくるなあ！」この一行に、白峰を愛してやまない行政マンのしたたかさを感じた。

雪だるまカフェの外観。(冬期は休館)



新しいメニューを待つお品書き。



手作りの雪だるまがあふれる店内。



## 「石川地域づくり優秀賞」受賞団体の取り組み

リサイクルネットワーク in 小松(小松市) お問い合わせ 0761-23-1735

NPO 法人 i-ねっと取材チーム

小松市内から小松空港方面に向かう。木場瀨から流れる前川の土手付近に大小のプレハブが建つ。小松市が「リサイクルネットワーク in 小松」に運営を委託している施設だ。

大きな施設はグリーンハウスといって、「知的障害ブナの木」の人たちと一緒に、生ゴミを堆肥に変えるための「ぼかし」と、廃油からつくる「粉石鹸」を生産し、平和堂、生協で販売を行っている。

小さな方の施設、リサイクルプラザにお邪魔した。ごみ分別集積所や環境啓発施設など地域によって多様なリサイクルプラザがあるが、中に入ると天ぷら油の臭いが漂う。そこは、各種機器が整然と並べられたプラント工場だった。

家庭の主婦たちを中心に17年前からごみの減量化を目指す活動を始め、4年後に「廃油リサイクル粉石けん製造機」の維持管理を小松市から委託された。まさに家庭の主婦の声が市の環境政策を動かしたと言える。さらに5年前からは廃食油からの本格的なリサイクル燃料の製造のための「廃食油燃料製造装置」を購入してもらい、委託を受けて現在小松

市のごみ収集車1台と破碎機のバイオディーゼル燃料が生産されている。

メンバーは26人。月1回例会を開きローテーションを組んで作業を行う。15の町内会と最近では公民館の方々も廃食油を集めてくれるようになった。メンバーの吉岡正純さんは「家庭から出る油がこうして使える燃料になっていく工程を見るのは楽しい。定年で家に居る者は沢山いるから、多くの年配者の生きがいも作ってくれる」と言う。代表の長田孝志さんは「今回の受賞を励みに、市は廃食油の収集場所を沢山作って欲しい。そしてもっとリサイクル燃料を使ってもらうためには、軽油と混ぜて使用するので軽油税が大きな障害となっている。この問題を知恵を出して解決して欲しい」と、これからの課題に触れる。

小松市と民間団体の協働によるこの取り組みは、バイオマスのエネルギー利用の先進事例として、国内で高く評価されているという。地域の小さな実験から、さらにリサイクル社会の構築へ向けた総合的な地域全体の取り組みへと本格的に向かうとき、私達は「協働の社会」の新しい姿を知ることになるのかもしれない。

プラント工場内部。(小松市向本折町)



年配者の生きがいと語る吉岡さん(右)と授賞式で発表した田中さん(左)。



廃食油燃料製造装置。



「NEWS & INFORMATION」はあなたの団体のイベント告知や、活動メンバー募集などを掲載するページです。掲載ご希望の団体は事務局までご連絡下さい。

## 地域づくりフォーラム

～参加から協働へ～

講座

参加のお問合せ 076-225-1312

いしかわ地域づくり塾（事例研究編）第5講として、金沢大学大学院の世古一穂教授をコーディネーターに、地域づくりフォーラムを行います。

- 開催日時 平成20年1月12日(土) 13:00～17:00
- 会場 石川県地場産業振興センター本館
- 参加費 2,000円（世古先生の著書「協働コーディネーター」進呈）
- お問合せ いしかわ地域振興推進協議会事務局  
TEL.076-225-1312  
chiiki2@pref.ishikawa.lg.jp

## 地域課題研究ゼミナール 支援事業「成果報告会」

報告会

参加のお問合せ 076-223-1633

地域課題研究ゼミナールの学生たちが地域課題に対する研究成果を発表します。金沢と能登の2会場で実施しますのでお近くの会場にお越しください。

- 金沢会場 平成20年1月13日(日) 10:30～15:40  
いしかわシティカレッジ教室
- 能登会場 平成20年1月27日(日) 10:30～15:40  
能登空港ターミナルビル
- お問合せ 大学コンソーシアム石川事務局  
TEL.076-223-1633

## 奥能登食彩紀行シンボルイベント “まいもんまるかじり王国” BRAND NEW『能登丼』がやってくる!

イベント

参加のお問合せ 0768-26-2303

〔内容〕

- 『能登丼』の紹介・販売
- 道場六三郎プロデュース「奥能登ろくさん丼」の販売
- 奥能登2市2町食祭ブース
- あなたが創る『能登丼』コンテスト

- 日時 平成20年1月19日(土)・20日(日) 10:00～
- 会場 道の駅輪島「ふらっと訪夢」
- お問合せ 奥能登ウェルカムプロジェクト推進協議会  
(石川県奥能登総合事務所企画振興課内)  
TEL.0768-26-2303  
<http://www.notohantou.net/okunotowp/>

## 地域プログラム企画セミナー ～我がまち再発見!～

イベント

参加のお問合せ 0767-22-3123

〔内容〕

- コスモアイル羽咋で体験活動
- 清流と伝統を活かした村で体験活動
- 地域サキヨミ座談会
- 地域プログラム企画づくりにチャレンジ!

- 日時 平成20年2月9日(土) 14:00～2月11日(月)  
(2泊3日)
- 会場 国立能登青少年交流の家
- 参加費 5,000円
- お問合せ Tel.0767-22-3123 Fax.0767-22-3125  
m.murohashi@niye.go.jp

## 防災研修会

研修会

参加のお問合せ 076-261-9612

金沢工業大学建築学科の後藤正美准教授を講師にお迎えし、能登半島地震の家屋の被害状況についてお話を伺います。受講料は無料です。

- 開催日時 平成20年3月15日(土) 13:30～15:30
- 会場 金沢工業大学7号館201号室
- 申込み 往復はがきに①氏名(フリガナ)②〒住所  
③電話番号を記入/3月8日(土)締め切り
- お問合せ 〒920-0962 金沢市広坂2丁目1-1  
県広坂庁舎2号館  
石川県NPO支援センター「あいむ」気付  
石川災害ボランティアネットワーク  
TEL&FAX.076-261-9612

## 能登地酒列車

イベント

参加のお問合せ 0768-23-1177

能登半島地震発生から1年を迎える3月に、改めて能登の元気を発信するために上野発の地酒列車を運行します。能登の自然と能登人と触れ合いながら心を醸していただきます。

- 日程 平成20年3月20日(木・祝)～22日(土)
- 基本コース 上野駅▶和倉温泉駅▶能登6市町▶能登空港
- お問合せ NPO法人能登ネットワーク事務局  
TEL.0768-23-1177 FAX.0768-23-8989